

H O YOG

教区新報



兵庫教区教務所
ホームページ



兵庫教区教務所
facebook

発行所

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号 (本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949 (代)
[編集] 兵庫教区広報部

2023.10 218号

浄土真宗の未来を探る

― 協賛行事シンポジウム開かれる ―

「浄土真宗の未来を探る」をテーマに、神戸別院で9月14日に「兵庫教区・神戸別院親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」協賛行事として、僧侶対

象のシンポジウムを開催した。当日は、オンライン参加も含め約120名が参加。那須公昭氏(宗派総合研究所研究員)、林正浩氏(大和総研主席コ

ンサルタント)、大野雅仁氏(寺サポート代表の3名のパネリストをお迎えし、基調講演と公開討論の時間が持たれた。本シンポジウムでは、開催に先立ち、6月〜7

月にかけて教区8ブロックの状況を確認する「ブロック巡回」を行った。巡回では「第11回宗勢基本調査」に併せ行われた「外部研究機関による寺院診断」の分析内容を

もとに、宗派総合研究所派遣の講師による、ブロック単位での解説が行われ、門徒戸数増減などの状況から、これからの伝道の在り方についての課題が共有された。

シンポジウムでは、「地域性を見据えた寺院の未来を考える」(那須氏)、「寺院診断」コミュニケーションを中心に、「(林氏)「求められる真宗寺院と寺院運営のヒント」(大野氏)と、各々の立場よりお話をいただいた後、竹内俊之氏(実践運動委員長)進行のもと、公開討論が行われた。



さまざまな意見が交わされた(右から那須氏、林氏、大野氏、竹内氏)

参加者からは、寺院の後継者問題や、組での法要・行事などに参画できる住職が減少しているなどの厳しい課題が提起された。また、「寺院運営に問題がないとされる地域でも、厳しい状況にあることを知ってほしい」という声も聞かれた。

10年後、20年後の僧侶・寺院像を模索し歩みを進めていく取り組みが、今、求められている。

10年後、20年後の僧侶・寺院像を模索し歩みを進めていく取り組みが、今、求められている。

10年後、20年後の僧侶・寺院像を模索し歩みを進めていく取り組みが、今、求められている。

10年後、20年後の僧侶・寺院像を模索し歩みを進めていく取り組みが、今、求められている。

10年後、20年後の僧侶・寺院像を模索し歩みを進めていく取り組みが、今、求められている。

10年後、20年後の僧侶・寺院像を模索し歩みを進めていく取り組みが、今、求められている。

10年後、20年後の僧侶・寺院像を模索し歩みを進めていく取り組みが、今、求められている。



新型コロナウイルスの感染症対策に対する制限が当初より緩和されて今はほとんど規制がなくなりました。なので、以前のように人の行き来が盛んになりました。ご法事の時も、遠方のご親族もお参りされるようになり、久しぶりに大勢の方々とお勤めをさせて頂きました◆新型コロナウイルスが発見されてからしばらくの間、今まで出ていた対面で会う、大勢で集まるなどたくさんの事が出来なくなりました。本当にその当時は空虚感をいだくことが多かったです。私はいろんな人の繋がりの中で生かされていたのだという事に改めて気づかせて頂きました。普段当たり前に人と接していた事が当たり前では無かったのです◆「当たり前」の反対は「有り難し」と聴かせて頂いたことがあります。阿弥陀様の前に座らせていただくと、普段の生活でどれだけのものに對して有り難いと思っ生活しているか、ついつい私中心で物事を見ていないかそんな危うい私を心配してくださっている阿弥陀様に對して嬉しくも申し訳なくも思います。

姫路中組 法性寺 池本史雅

組における親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要について



多紀組での慶讃法要（7月30日）

「法縁によって同じ道を歩む人たちが繋がる喜びを再確認し、実感する場」である「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」が本願寺において、本年5月21日にご満座を迎えた。

教区・組・寺院におい

ても、ご消息にお示しの「み教えに生かされ、いよいよお念仏を喜び、すべてのいのちあるものが、お互いに心を通い合わせ生きていけるような社会の実現」をめざす法要

となるよう、令和6年12月までの修行が推進されている。

兵庫教区の慶讃法要は令和6年5月16日（木）19日（日）の4日間の日程が決定しており、法要推進委員会にて詳細内容について協議が進められている。

また、組における慶讃法要については、既に2組から修行の報告を受けており、他教組より法要実施の計画書が提出されている。

なお、実施については2か月前までに計画書等関係書類を、組事務所から教区法要事務所（教務所）を経由して、中央法要事務所（法要庶務部）へ提出する必要がある。

本法要の修行を通して、親鸞聖人がお示くだされた浄土真宗のみ教えが益々広まるよう、各組からの法要修業計画書の提出が待たれる。

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年によせて

「慶讃法要」を機縁に、四夷法顕さんに連載いただいています。

親鸞聖人御誕生の意義、立教開宗が示す意味を、と一緒に味わわせていただきます。

05

教団名としての「浄土真宗」

一宗を開く意図がなかった

親鸞聖人が「浄土真宗」という場合、それは教団名ではなく、教法の名称として用いていたことは前回までに述べてきました。現在のように「浄土真宗」が教団名として使われるようになったのは、聖人がご

往生されてから実に二百年あまり経った、本願寺第八代宗主・蓮如上人の頃からです。当時の本願寺は、「さびさびとしておあします。参詣の人一人としてなし」（『本福寺由来記』）という有り様で、教団としては微々たるものでした。

しかし蓮如上人は、父の存如上人から宗主を継承すると改革を次々とおこない、本願寺を一躍全国的な教団へと成長させました。

蓮如上人の時代、一般的に浄土真宗のことを「一向宗」と呼ぶ人が多かったようですが、この名称はむしろ時宗（時衆）の一遍上人智真や、一向上人俊聖の教団に対する呼称でした。そのようなことから蓮如上人は「宗名章」と

呼ばれる「御文章」で、

開山（親鸞聖人）はこの宗をば浄土真宗とこそ定めたまへり。されば一向宗といふ名言は、さらに本宗より申さぬなりとしるべし。

〔註釈版〕一一〇五頁

と誠めています。私たちは親鸞聖人が「浄土真宗」と仰がれた本願のみ教えを聞き喜ぶ者の集まりであるから、その教団名もまた「浄土真宗」とせねばならないと初めて明言されたのです。

そもそも一向宗という名称は、『仏説無量寿経』の「一向専念無量寿仏」の経文に基づいており、ただひとすじに専ら阿弥陀仏を念ずるという意味です。元から本願寺教団のみを指す独自の呼称ではありませんでした。前述した時宗の一遍上人や一向上人、さらには

仏光寺・専修寺・錦織寺・毫摂寺などの各真宗門流、浄土宗鎮西派などの浄土異流までも含めた、一向に専修念仏する人々の総称だったのです。

蓮如上人の時代は、法然聖人

によって説かれた専修念仏の教えを受け継ぐ諸門流・諸派が、各地で教線を布いていました。そのような状況下で、親鸞聖人を浄土真宗の宗祖として仰ぎ、他の専修念仏教団との差別化を図っていた蓮如上人は、他宗との混同を避けるためにも、自分たちの教団名を明確に定めおく必要があったのです。

ところが、本願寺教団そのものは全国的な組織へと成長を遂げる一方で、「浄土真宗」という名称はなかなか定着しませんでした。江戸時代以降、本願寺は幕府に対して一向宗という俗称を廃し、「浄土真宗」の公称を求めましたが、浄土宗からの反対があつて許可されず、明治五年に「真宗」の公称が新政府によって認められます。教団名として「浄土真宗」の公称は、そこからさらに昭和二十一年まで待たねばなりませんでした。

龍谷大学 相愛大学 非常勤講師
阪神西組 信行寺住職

四夷法顕

本願寺で過ごす夏

— 少年連盟が児童念仏奉仕団に参加 —

真夏の日差しが照りつける、7月23日から1泊2日の日程で「第60回兵庫教区少年連盟サマースクール」(岩田紘昭委員長)が開催された。

コロナ禍により4年ぶりの開催となった今回は、本願寺で行われた「児童念仏奉仕団」に約80名が参加。

1日目は、清掃奉仕や、本願寺境内・書院などのウォークラリーが行われ、夕方には京都水族館を見学。2日目は、午前5時に起床し、眠気と正座の痛みに耐えながらお晨朝へ参拝。午後からは、京都教区教務所で、念珠作りと和菓子作り体験を行った。



夏の思い出(御影堂前)



御影堂をピカピカに

有意義な2日間

— 門徒総代が一泊研修 —

教区内門徒総代が、組・地域を超えて交流し、学びを深める「門徒総代会一泊研修会」(北本誠会長)。コロナ禍により開催が見送られていたが、門徒総代からの強い要望を受け、4年ぶりに開催された。

8月28日、29日の2日間、神戸別院で行われた本研修会には、51名の門徒総代が参加。

テーマを「立教開宗の意義」とし、講師に四夷法顕さん(西宮市・信行寺)をお迎えし、翌年の兵庫教区・神戸別院の「慶讃



熱心な意見が交わされた

古都の旅

— 寺婦が京都で現地研修 —

「歴史を感じる旅へ」をテーマに、寺族婦人会連盟(杉本笙子委員長)が9月28日に研修旅行を開催し、40名の寺族婦人が参加した。

午前は本願寺史料研究所の岡村喜史さんより解説をいただきながら、本願寺の書院や飛雲閣を拝観。

午後からは、市内にある重要文化財の京町家・杉本家住宅を訪問。10代目当主の杉本節子さんから、杉本家の歴史と、大切に受け継がれてきた「浄土真宗門徒の暮らし」についてお話を伺った。

参加者からは「普段聞くことが出来ない話を、現地で直接聞いた。参加してよかった」との声も。歴史と文化を肌で感じた贅沢な旅となった。



貴重なお話を伺った(杉本家住宅)



飛雲閣(国宝)を拝観



詳細な解説に聞き入った(本願寺鴻の間)

親鸞聖人御誕生850年・
立教開宗800年慶讃法要

協賛行事のお知らせ

釈徹宗さんとサヘル・ローズさんの講演と対談

「兵庫教区・神戸別院 親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」をお勤めするにあたり、協賛行事として、釈徹宗さん(僧侶・相愛大学学長)とサヘル・ローズさん(俳優・タレント)を講師にお迎えし、講演会を開催します。僧侶として、メディアなど幅広く活躍の釈さんと、俳優として活動しながら子ども達への支援活動も続けているサヘルさん。国籍・宗教・活動する世界など、異なるバックグラウンドを持つ二人の対話を通し、新たな視点や学びの機会となることを願いとしております。講演は、どなたでも無料で聴講可能です。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

2024(令和6)年2月10日(土) 午後 本願寺神戸別院にて開催



釈徹宗 (僧侶・相愛大学学長)



サヘル・ローズ (俳優・タレント)

プロフィール

1961年大阪府生まれ
相愛大学学長 専門:宗教学、比較宗教思想
浄土真宗本願寺派大阪教区豊島北組如来寺住職
NPO法人「リライフ」代表

【著書】

『ブッダの伝道者たち』(角川選書)
『死では終わらない物語について書こうと思う』(文藝春秋)
『随縁つらつら対談』
『この世を仏教で生きる 今から始める他力の暮らし』
(大平光代氏と共著)
『おてらくご』(本願寺出版社) 他多数

プロフィール

イラン出身。8歳で来日し、高校生から芸能活動を始める。
舞台『恭しき娼婦』では主演を務め、主演映画『冷たい床』では、ミラノ国際映画祭で最優秀主演女優賞を受賞するなど、映画や舞台・俳優としても活動の幅を広げている。また、第9回若者力大賞を受賞。
国際人権団体NGOの「すべての子どもに家庭を」の活動では親善大使を務めた。
個人的にも支援活動を続け、2020年にはアメリカで人権活動家賞も受賞。
13年ぶりの新著『言葉の花束～困難を乗り越えるための自分育て～』も好評発売中。

6月末日付で山蔭七歩氏(一般職員)が退職いたしました。

退職のお知らせ

兵庫教区・本願寺神戸別院
親鸞聖人御誕生850年 立教開宗800年
きょう さん ぼう よう
慶 讃 法 要
2024年(令和6年)5月16日(木)～19日(日)の4日間



井筒法衣店

〒600-8468

京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)

Tel 075-351-1234

☎ 0120-075-720

Fax 075-341-7905

オンラインショップを開設しました

